

子どもが運動の楽しさやよろこびを味わいながら、教え合い工夫する体育学習をめざして

大分県津久見市立津久見小学校

全校児童数	286名(男子152名 女子134名)		
全クラス数	12	教職員数	24名
体育専科教員訪問学校数			3校
訪問校	青江小・堅徳小・千怒小		
体育専科教員名		井上 富士久	

Plan：取組時の課題と計画

1 取組時の課題

- ◆体力調査結果等から「握力」「上体起こし」「反復横跳び」、「20mシャトルラン」に課題がある。
- ◆生活習慣調査から運動・スポーツをすることについては男女とも好きな子どもが多いが、1日の運動・スポーツの実施時間で男子に比べると女子の実施時間が少ない。
- ◆日常の授業では、本時のめあてについてはおおむね示されているが、その日の授業内容やめあてを振り返る活動が行われていないことがある。

2 取組の計画

- ①児童実態把握
- ②体育指導の工夫改善
- ③体育年間指導計画・授業プログラムの検討
- ④1校1実践の計画・実践
- ⑤本務校・兼務校でのTT指導により、関係校の授業改善を進める。
- ⑥年3回公開授業を実施し、指導方法の工夫改善等、体力向上の効果的な指導のあり方を、市内教職員に広げる。
- ⑦津久見市体育主任会等で、実践報告による指導方法工夫改善の提言を行う。

Do：実践内容

1. 児童実態把握

- (1) 体力・運動能力調査や日頃の体育の授業から、子どもの興味関心の強さや得意・不得意などを把握する。

2. 体育指導の工夫改善

- (1) 1単位時間の授業構成を工夫する。
- (2) 「面白そう!」と興味をもち、「これならできそう」と見通しをもてるよう、運動の場や用具の工夫をする。
- (3) ペア学習やグループ学習を取り入れることで、見合い・教え合いの学習を進める。

3. 年間指導計画・授業プログラムの検討

- (1) 単元を通しての学習のめあて、本時の学習のめあてと振り返り、次時の予告を行う中で学習の見通しが持てるようにした。
- (2) 次年度に向けて、単元の構成を見直す。

4. 1校1実践の計画・実践

- (1) 授業開始直後の「〇〇鬼ごっこ」や「動的ストレッチ」を継続して行うことで心拍数を上げ、体の柔軟性を高めることで、その後の主運動にスムーズに移行するとともに体力向上にもつなげる。
- (2) 休み時間を利用して子どもたちが自ら活動できる運動遊びを通して、体力向上につなげる。
- (4) 3年生以上の児童の25m皆泳をめざして、夏季休業中に水泳教室「2525 ニコニコチャレンジ」を行う。

5. TT 指導による授業改善

- (1) 学級担任と連携し、児童の実態に合わせて授業を行う中で、できた実感や喜びを味わえるようにする。

6. 公開授業の実施

- (1) 年3回公開授業を実施し、指導方法の工夫改善等、体力向上につながる効果的な指導のあり方を、市内教職員に広げる。

7. 実践報告による提言

- (1) 津久見市体育主任会等で、実践報告による指導方法工夫改善の提言を行う。

●工夫したこと (&苦勞した点)

- ①1時間の授業の構成を①体力向上を目的とした準備運動(〇〇鬼ごっこ・動的ストレッチなど)、②主運動、③振り返りのパターン化を図った。
- ②ペア学習・グループ学習を取り入れた授業を行うことで、見合い、教え合い、励まし合う態度を育て、グループや全体で子どもが温かい雰囲気の中でいろいろな運動に挑戦し、自分やグループの伸びや達成を喜び合う体育学習に努めた。
- ③25m泳ぐことが苦手な3年生以上の子どもを中心に夏期休業中に水泳教室(ニコニコチャレンジ)を行うことで、「やれればできる」と自信をもち、喜びを味わうことができた。

Check：取組の成果

- ①授業開始直後の「〇〇鬼ごっこ」や「動的ストレッチ」を行うことで心拍数が上がり、体の柔軟性も高まったことで、その後の主運動にスムーズに移行するとともに体力向上にもつながった。
- ②今の自分の力を知り、その力を高めることに挑戦する活動を仕組む中で、自己の力や記録が伸びたことを実感し達成感を味わう子どもが増えた。マット運動では、「前よりマット運動が好きになった」と答えた子どもが94%になった。持久走では、単元開始前持久走に対して肯定的な考えをもっている子どもの割合は45%だったが、単元終了後に行ったアンケートで、「前より持久走が好きになった」と答えた子ども割合は76%にまで上昇した。
- ③本務校及び兼務校の学級担任と、「体育の時間が楽しい」と思う子どもが増えるように、子どもの実態に応じた「運動の楽しさやよろこびを味わう体育学習」の工夫・改善を行うことができた。

Action：今後の課題

- ①体力・運動能力テストの結果や、体育の授業での子どもの様子を分析し、子どもの実態に応じた「1校1実践」の取り組みの改善を行う。
- ②運動好き・体育好きの子どもが更に増えるように、子どもの実態に応じた「運動の楽しさやよろこびを味わう体育学習」の工夫・改善を行う。

◎体力向上の取組がもたらす波及効果

- ①「面白そう!」、「やってみよう!」など、いろいろな運動に興味を持つようになるとともに、休み時間にもその運動(遊び)をして楽しむようになる。
- ②自分の経験から友だちに対してアドバイスや応援をしたり、互いの上達を喜び合ったりすることが増えてくる。

